

第2期県立高等学校将来構想審議会（第1回）における論点

I 検証関連

1 検証の目的（審議会における調査審議の方向性等）について

- 検証で最も重要なのは、それを契機又は手段とした学校の活性化。学校の活性化を促す検証を。
- 各学校が自らの役割を認識した上で、学校の取組の充実につながる検証を。
- 課題をあげつらうだけではなく、学校を励ますことが、検証の本質的な目的。したがって、答申では、グッドプラクティスをいくつか例示したい。
- 義務教育と同様、高校でも指導案の作成が重要であり、検証を通して改善されることを期待。
- 宮城の高校教育の未来をつくれるような検証作業にしていきたい。
- 施策だけでなく、教育庁や審議会としての（情報発信等の）説明責任が果たされているかも継続して検証すべき。
- ソフトウェアが思うように動かなければ、ハードウェアに何らかの欠陥があるわけで、その修正が必要となる。

2 検証の視点について

- 高等教育と義務教育の間にある高校教育はどうあるべきか、という視点が重要。
- 教育の「質の保証」という視点から見ていきたい。
- 高校が地域との連携をどのように進めていくべきかという視点から見ていきたい。
- 現構想で進められてきた制度的な枠組の改革が、学校及び教育の充実につながる制度設計になっているのかという視点で検証していきたい。
- 現構想と新構想はハードウェアとソフトウェアの関係にあり、これをどう調整するのが切り口。
- 「多様化」は「差異化」「個別化」といった状況対応型の意味ではなく、「どういう状況をつくっていくか」ということ。宮城県が独自の多様性をどれだけ打ち出せているのか、そこをみるべき。
- 「宮城の将来ビジョン」（県総合計画）との整合が図られているかも見る必要がある。

3 検証手法について

(1) 現状把握に当たって

- 現状把握に当たっては、統計資料の分析と実地調査だけでなく、ヒアリングやアンケートなど、検証作業の過程で調査手法を確立していくべき。
- 現状把握には校長の理解と協力が必要。校長協会とのタイアップを考慮してほしい。
- データを見るだけでは現状把握できない。また、高校の校長や教員のほか、中学の教員からの話を聞くことも必要。

(2) 成果・課題の抽出に当たって

- すぐにデータをみるのではなく、それぞれの施策の目的・目標をまずじっくり見ていくことが必要。
- 課題把握においては、プロセスマネジメントの観点が有効と思う。
- アウトカムの設定に当たっては、時間をかけて徹底的に議論すべき。
- アウトカムは、部会ではなく審議会全体で議論すべき。
- アウトプットの施策体系を示した現構想と、アウトカムの施策体系を示した新構想を、つなぎ合わせて評価するためには、実施計画を含めて、上手につなぎ合わせていく必要があり、新たな評価手法の確立が必要。
- 前工程の小中、後工程の大学・企業側からの評価も必要。また全体を通して地域からの評価も必要。

4 検証対象について

- 新構想で掲げた未来を担う人づくりに向け、志教育の充実に繋がるものを検証の対象とすべき。
- 学校現場における就職支援体制について、十分な検証を期待。
- 各校のHPにおいて、コンセプト（観念、構想）がきちんと打ち出されているのかも検証する必要があると思う。
- 全県一学区化の成果は、もう少し様子を見る必要がある。
- 「男女共同参画に向けた取組」や「進路を切り拓ける人材の育成」など、価値判断が入る分野の検証は難しいと感じている。

Ⅱ 教育改革のプロセス関連

1 制度改革に対する評価について

- 教育制度の変わり目は、生徒、保護者、教員が非常にとまどっているのが現状。
- 全県一学区化は、数年すれば落ち着くと思うが、学力中位層の進路指導において学校は混乱した。
- 全県一学区化により、高校のPR意識や魅力づくりの点で成果があった。
- 保護者からは、学校の現状が全く見えない。

2 制度設計又は施策展開における要望等について

- 優れた施策であっても、その施策遂行に教員のスキルが追いついていない場合がある。学校現場で社会人を活用するなど、教員を補佐できる体制整備も検討すべき。
- 通学手段の確保は重要。学校再編に当たって、十分配慮して欲しい。
- 全県一学区化をさらに有効なものとするためには、通学に係る公共交通網の充実が重要であり、その対応策について個々の学校だけで対応するのではなく、県教育委員会としてのサポートが必要。
- 全県一学区化は、選択の拡大というメリットがある一方、地域拠点校からの流出圧力が常にあり、その流出防止策も必要。
- キャリア教育の成果が何なのか、審議会全体で議論することが必要。就職率だけでなく、どのようなコンピテンシー（能力）を身につけさせるのか等。
- 新構想で掲げた「自らの進路を切り開ける人」「志教育」という挑戦者を育てる方向性は素晴らしいが、挑戦には挫折が伴うものなので、そのフォローも必要。
- 学校の独自事業の予算を確保するなど、ボトムアップ型で充実した教育が展開されるよう、学校分権を促進すべき。
- 学校の統廃合に関して、地域との関係づくりも気になる。

Ⅲ その他

- 新構想の「自らの進路を切り開ける」「人づくり」というキーワードには大いに賛同。
- 少数でも高度な議論のできる人材の育成ができるような教育改革を期待する。
- 新構想に「キャリア教育」という柱を掲げたことは素晴らしく、期待している。